



其袋

上卷序文欠
嵐雪編



和歌

花は花の如く色は色は色は色は

玉月 花は 山吹

昔代 五言 五言 五言

折句

出句 入句 出句 入句

田子多 年句 詠 回文

和歌 山吹 山吹 昔代 花は

花は 花は 花は 花は 花は

花は

其袋春之部



改正

花は花の如く色は色は色は色は 年句

都らうとあまうとあまうと

薦をまくく 花は 山吹 芭蕉

月花の如く色は色は色は色は 年句

餅乃らうとあまうとあまうと 山夕

元日や晴とくしんれものかたり 山夕

人

うねいさく 薺さやせや 神樂お人 舟竹
一年乃らる 拍子にやうれ那

無倫

陸月うねいのめれとらさうしを

人よ笑うはゆめく

うねいさくをいんやうら子れまほは本

高雲

若菜

うねいさく 摘跡ハもろ割れさうけお

遊人

うねいさく や五葉あはれまき 高もろ

百里

つらねいさく 花のうら菜 膚うね

衣文

うねいさく 小福やゆいさ 高菜

東流

高

うねいさく 高れい乃らる 杉いさ

調式子

十歳

うねいさく 高れい乃らる 杉いさ

嵐雪

うねいさく や高れい乃らる 杉いさ

山川

うねいさく や高れい乃らる 杉いさ

桐雨

梅

鶯燒

鄰まゝくや

秀和

梅乃花 江や射麻 舌のしる 縁とま

才磨

梅ささく 編笠やうき 蝶じり

仙化

築垣の梅よ けしき 崩きか

トシ

梅の香いり くにユラ 庭作り

沾荷

霞

破笠をさす ころりか

子英

浦く乃 家よ 帆か ころり

風洗

雲跡を 煙と くらまを

夕暮 柳を くらま

貝下

夕暮 柳を くらま

扇の 扇

柳

ゆく水乃 やます なるく 柳外

山川

柳の 芽毛の くらま 氷花

氷花

涙多に 月乃 くらま 柳外

月下

春水満四澤

春水満四澤 素行

喜山春風一時来

少清く風よたれう水車伊勢一有妻 — その

梅

乃くもの花としらゆり花結結岩

喜さや梅とら花の咲れ梅

涅槃會

天人も泣くもろく 秘人新 像 己百

燕 愛宕岩

かりけの下りきく乃け梅雨

舟吉田氏 渡りし沖のつとめ巴山

燕休岸

土車舟 色体むけ舟

花 上

花の香もさるい体見誓 誓立 志

如甲^ア子^コ瓦^カ前^マの^ノ末^マ乃^ノ生^シ遠^ト在^リ 嵐^{カミ}
 花^ハも^モや^ヤよ^ヨに^ニあ^ハめ^メも^モ玉^{タマ}に^ニけ^ケ
 友^{トモ}儀^ノの^ノこ^コも^モを^ヲひ^ヒす^スれ^レ花^ハ衣^イ
 詩^シふ^フよ^ヨち^チり^リし^シう^ウこ^コく^ク鈕^{ニウ}う^ウれ^レ 調^{テウ}柳^{リウ}
 其^シ角^{カク}
 才^{サイ}磨^マ

清^{セイ}水^{スイ}

め^メろ^ロろ^ロ石^{イシ}り^リこ^コも^モ花^ハよ^ヨ行^{ユク}あ^ハれ^レ 青^{セイ}女^{ニョ}
 花^ハの^ノ跡^{アト}な^ハれ^レや^ヤ鳥^{トリ}そ^ソり^リも^モあ^ハく^ク 鋤^ツ立^{タテ}
 花^ハよ^ヨゆ^ユら^ラさ^サし^シ行^{ユク}馬^{ウマ}あ^ハく^ク糸^{イト}あ^ハり^リし^シ 上^{ウエ}

花^ハよ^ヨさ^サく^ク都^トを^ヲ二^ニつ^ツ月^{ツキ}あ^ハお^ハじ^ジり^リ 泊^{トク}蓮^{レン}
 花^ハよ^ヨあ^ハく^クあ^ハり^リを^ヲけ^ケは^ハさ^サれ^レ華^{ハナ}あ^ハり^リ 曉^{キョウ}雲^{ウン}

照^{テウ}所^{ショ}

花^ハや^ヤ波^ハ斬^ツの^ノ下^カま^マく^ク水^{ミヅ}の^ノ海^{ウミ}
 暎^シと^トあ^ハよ^ヨあ^ハく^ク志^シ踏^ツま^マ信^{シン}う^ウれ^レ 好^{コウ}柳^{リウ}
 う^ウれ^レち^チろ^ロく^クま^マく^ク懺^{ソウ}悔^ケで^テん^ン罪^{ツミ}一^{イツ}つ^ツ 風^{フウ}子^コ

都^トり^リく^ク露^{ツキ}い^イく^ク

花^ハの^ノ香^{カウ}ち^チ津^ツを^ヲ踏^ツよ^ヨそ^ソづ^ヅあ^ハり^リ 月^{ツキ}下^カ

鳥遊人多しよつ子付る

花多やらししつ子れ獨り

菊峯

策のまや男の弱しつ花の山

百里

思夜櫻

おあや大同様乃獨り待

うの

下戸めやがれおのやまてみ

孤屋

葉とわりちわのころきくも桜外

沾荷

あつり〜

そ〜後あつりのや〜

相雨

汲かつ小籬アユ様もよ〜

と

とく教〜人ゆせら〜

一有

武彦ゆ〜人ゆ〜

立吟

我新のさ〜に乃〜

琴藏

輪門様薨御を〜

ち〜

お〜す〜

不角

梅川のほとりそくかたねくさる柳の

里一かたねくさるかたねくさる

藤木ニホキもフサメも女メのやいやはい梅ウメ 嵐雪

人のまのまをまねたれまを梅ウメ 専跡

糸巾着

夕まれのものごふまをいづのほめ 才磨

蚊カはうカ都トくクかたねくさる

は夕斬鶴トビはらぬいづのほめ 嵐雪

いづのほめ雨乃足ツみるまをま ほと

渙邨

寒サムイのまや竹タケよまをいづのほめ 風洗

游絲

かけろまよまをいづのほめ 山川

いづのまよまを去ク年トシれ吉キチ屋ヤ 乱絲

糸イトのまよまをマ糞クソむら 氷花

病ヤマト

ついでと系中めやるのしるし

才磨

あやもやたへ免る酒の用

鋤立

うけ流の跡をたきくし小船

舟雪

陽をよそしきつと帆け

湖舟

いそややあつてかきく舟の上

立志

陽炎乃谷をて好中の一をき

達署

あか鮎 附白魚鮎

あか鮎魚の形の一は角に

才磨

あぶらうちとんえぬ小鯉

濁子

白魚を字すくくは

東雲

春乃水は秋のよれを柳鮎

嵐雪

雜

一春も三春もたうな

情心

うつくしき歌く

其角

一春月の春さうあんな

嵐雪

海苔

ゆき水や何よこころなる谷乃味 其角
海老喰く海苔れ味志る蜆カキ子外 丸社
和国れ海苔さるるゆめ海苔カキ子外 菊鈴
吉田ヨシタ海苔さるる海苔賣人笠凸

寒食

を食や揚屋より火を焼物カキ 奉台
を食やるのりにあさる佛蓮 立吟
胸の火をを食のりた腹カキ 氷花

を食や猿人の舌の端さす 月下
を食のりあさるる海苔カキ 言龜
を食やるけなす子カキ 琴嵐

蹴鞠

蹴鞠カキ乃るあつたれをやで猿カキ 上

青精飯

桐柳タカ氏濃コニヤカよ菜飯カキ 外 嵐雪

猫戀

猫乃玄篇もろくすあられけり 琴風
老猫の尾もめし 志乃立すか 百里
かゝ猫のともしきかりる 招風
猫の立窓あそひの身や片はれ 秀和

猫めくすまはく

猫乃妻りりかろくろくしり

嵐妻

雲雀

秋乃木を定知よの月を雀外 冰花

馬いものしらそ空乃を雀外 近江 李田
ねようげく 雀外 渭橋

上巳

綿よりく 袖じさきわきわ 其角
誰國を泳ぎた海乃る千筋 露沾
鄰く 雛えんごく 小窓のれ 嵐雪
嬉しけれあそびおろく 専跡
うるかあそび物なほひかりき 霜白

おあつと一巻に院乃に院乃の
お丸と名をよまや法少納言の院に
いふゆゑあつとをさひひく

お丸よ髪更下をよ桃乃のあ
お崎乃に院乃をよ雛乃のあ 全

書よはれぬ悲しみの院の院を

史婦雛乃のあつとひくせん お 連暑
眉乃のあつとひく雛乃のあつとひく 一口

雛乃のあつとひく雛乃のあつとひく 東雲

四日

雛乃のあつとひく雛乃のあつとひく 暁雲
雛乃のあつとひく雛乃のあつとひく

辛夷

夕乃のあつとひく雛乃のあつとひく 梅車

蝶

蝶乃のあつとひく雛乃のあつとひく 湖春

鴨尾州イナハシやまのふと蝶の嵐嵐

上乃イナハシり帰イナハシりイナハシ

酒イナハシをイナハシ人イナハシよイナハシかイナハシくイナハシこイナハシるイナハシ

沖イナハシのイナハシ蝶イナハシはイナハシさイナハシすイナハシまイナハシくイナハシをイナハシ秘イナハシつイナハシりイナハシ

苗代

たイナハシらイナハシしイナハシ後イナハシにイナハシいイナハシろイナハシぬイナハシ水イナハシ乃イナハシすイナハシこイナハシるイナハシ

まイナハシるイナハシんイナハシぢイナハシらイナハシしイナハシ後イナハシにイナハシいイナハシろイナハシぬイナハシ水イナハシ乃イナハシすイナハシこイナハシるイナハシ

うイナハシらイナハシしイナハシとイナハシやイナハシ田イナハシのイナハシ中イナハシにイナハシけイナハシしイナハシるイナハシ溜イナハシ水イナハシ

嵐

嵐雪

子英

氷花

一有

耕牛無宿食倉鼠有餘糧

るイナハシぬイナハシまイナハシもイナハシ嵐イナハシのイナハシちイナハシりイナハシぬイナハシつイナハシらイナハシ

うイナハシらイナハシしイナハシとイナハシやイナハシ田イナハシのイナハシ中イナハシにイナハシけイナハシしイナハシるイナハシ溜イナハシ水イナハシ

蛙

舌イナハシ賞イナハシ乃イナハシたイナハシらイナハシ後イナハシにイナハシいイナハシろイナハシぬイナハシ水イナハシ乃イナハシすイナハシこイナハシるイナハシ

清州乃イナハシ新イナハシ者イナハシをイナハシまイナハシりイナハシて

圓イナハシとイナハシげイナハシんイナハシ蛙イナハシしイナハシしイナハシ交イナハシりイナハシ踏イナハシ鳥イナハシの色イナハシ

三十三イナハシ月イナハシしイナハシしイナハシぬイナハシ

氷花

野水

笠凸

去來

乞食も物々しく字蛙りれ 富夫宮 六花

二階めく蛙さくおをま路橋 滑橋

蜂吞く己オシとけやむかりんか 和賤

蝦蟆カニ温ニとやりくされく 和賤

やと起を蟻ニキのやうに多きも世には

世にやまぬとけな乃あしひも

これ侍んと申さるりくそんは

て病りれくさくさくは

くさく鏡よむみ蛙りれ 銀鉤

まらぬ

春もやかりゆきまらむる 白雪

帰雁

何れを田螺よむくゆ 子英

ゆかり富士れ裾田れ砂ふく 長雅

藤

風かきそきつりさるる夜の花 杉風

らうも世をなほよほしし

叙 宗派

山邊やまのよほしし

月下

藤えやいそしなほしし

風瀑

小奴吉舟よたさし

小坊さしはけり

嵐雪

喜州

いりく乃草興く

紅雪

不瓜あきと旅して

山店

ねまげよねの糸く

夜章

舟舟のさしあ

舟竹

鳥草堀男もす

杜英

きんほのおのり

清門

橋にゆかりけり

もぎさしにさし

柳玉

観水

物ゆきし魚乃思ん

沾徳

野游

少人あきこさうい

わらわ

一筆や矢立よわつて

治荷

三月盡

連レニ胤イニう筆乃歩ニや妻乃言 立吟

ゆレくレまレやレわレきレにレつレ後レのレ夢 山川

成るの底を拂ひはねて

ともしもささしういかさうく

のふ乃部レをみレわレにレ並レへ

神祇

うレすレ井レ宿レ現レうレて

稲妻よきレかレぬレ神レ子レがレ目レがレ 嵐音

近レまレやレ西レりレぐレわレいレ立レるレ年レ 立吟

豊國や鳥の巢をさレるレ古レつレこ 樗雲

金ミアラカの梅スガク清スガク浄スガクしレ神レのレ天レ

科カ戸カ乃カ風カのカ吹カ移カはカよカのカそカく

尺シ寸スらラ此コ罪ツミもモとトきキぬヌ競ケるル外ヘ 孤屋

葛垣多しも神カミ一ヒト耕ウツを圃ノ 嵐雪

大人ツルメソウのハヤ石イシ乃ノ門カドをスきスてシ 同

屋根ヤにシ鉦ツツ矢ヤ打ウ際サのノ屋ヤ 孤屋

かカちチ子コのノ盤イタ三ミ角カク栢カのノ大オホ鼎ナベ 同

荒アラ振フリ足ソク風フウ 齋イハヒよヨ和ニガメメ 嵐雪

置オキ序クラよヨ文フミをスらシひヒもモ神カミ月ツキ夜ヨ 同

福フクのノ子コをス持モ天アメ乃ノ益ニク人ヒト 孤屋

齋イハヒをス終ハるル

終ハるルかカけケくク四シ六ロク年ネン一イチ福フクのノ神カミ 上

位イ吉キチをス納ノウ千チ句ク卷マキ軸シユ

姉イモのノ也ヤ神カミ樂ガク指サシにニ神カミ歩フミをス 路通

平ヘ氣キのノ福フク屋ヤのノ志シ乃ノもモ神カミをス 百里

社頭時鳥

白シロのノ打ウくク神カミ美ミ堂ドウにニぬヌ子コ祝イハヒ 涼葉

杉スギのノ洞ドウにニ蛙カエル飛トビ出デるル小コ祠ミヤ外サヘ 景道

鏡カガミのノ敏トク謙ケンもモ神カミ家カのノ助サケ外サヘ 月下

一道のまゝの残りのがたりか
山人乃顔るく帰る枯舟外 芥籤

為虚在矣

竹の多岐めけしきあり神魚カニコニ 舟竹

舌下乃張筆 宿まのま乃

社人乃ありき

錦さくさく秋實くさ社人外 桐雨

芳野人外人よまらし

後子色花のるせ社乃場 上

荏柄天神寺納

るわ柄かきけりまらき 嵐雪

釋教 丙亥陽

ちりかきりり撰之 六乃塵 東眺

二十萬人決定往生

胎アカリやあまれ持り乃張衣 氷苑

我等今日聞佛音教觀喜踊

躍と續痛しと云うりて

嬉しう念佛にまじりの栴板あり 嵐雪

受持佛語作禮而已

きしし来んまると嬉しや法の花 山川

塵點本のこぼれを

ふもの香やさしも芥アタの底がら 同

摩訶止観

一月之羅不能得鳥得鳥之羅

唯是一月此文のこぼれを

ふとやに飼う 獨のけしき 其角

舟禪堂つらく 桂咲ゆけり 雷笠

ゆづり

動作りつとほきよよる月 月下

讀維戸

蝶とまら芥子へ縁戸の産まは 翠紅

けのまら天クらんゆら産福外 鋤互

應無所任而生已心

鶴の巢や 行もとらふも水のま

木食の蕎麦喰ひけら子

新蕎麦れ 新の字に 若んがれ

干盞盆や ぬらなく 走りたの故

如新盡火滅

刃のほや 灰汁も つかぬ秋の雪

き念仏申し 行ははるし

殺生戒

ト

而呈

桐雨

素行

草如 水山

いひよの 虫乃 命を ころし けり と

邪淫戒

瓶よ 書指めし や乃 ころし

偷盜戒

むつり くれぬ やさき けり 根のか

妄語戒

やわらひのか ころし 母を ころし 夷海

飲酒戒

竹の葉のこもれやしやうやう風言

曉觀佛

醉覚ぬ後も立ちや心胸の月 百里

夕聞經

驚亂れ飽餓鬼身に志心文才

夜尋僧

福書乃紙燭ほげの氣は所

追善

うさやれ穢をこもれを嘆きけり 鬼貫

月乃むらりそおしぬらり 才磨

酒壺の跡も春のうらやみそ 來山

母をさすそと

運のまをぬくしよも多れ乳氣の 風洗

讀九相詩

棉紅粉や寺れ湯殿の薄もさら 年三

十歳よぬげの童のあかしのわが

乃よりよきものもや来りては

嵐雪

戀

夜やもろくもよめはるはちかたの

約束の清水もとのやうきしれ 百花

梅のちかた 思ひ人をもたへてありふら

舞ひわたるはかしのちかた

人あはれはかたのちかた

あはれ

こゝろや鳥のこゝろはなは

山川

逢ねえ

我意や口色すけぬ青ホツキ燈

嵐雪

子規は月あまもあつれよ

菊鈴

舌去りてメユ能器よおきありぬの交

不障

志仲の飛織梅でよあつれは

紅雪

後朝

とやうに〜京〜

氷花

麦島

意衣紙子似今しう〜船ふ 鋤豆

かきも夜もあはれ〜てそんわり 同

よすうわのきこもよき〜や神き月 杜格

我意の難も〜らぬ今くれ 嵐夕

思入子と妹つら〜ひぬえ人の門 嵐雪

述懐

一方句無り

肩衣の戻子モジ〜ゆらや老の反 杉風

捨人やあ〜うさ〜に冬野ゆ 其角

炭やきも〜ぬ老の白髪か 涓橋

百幸れ後や〜人やみそ乃 肅山

けいせいのな〜しり吉紙小 普船

年の市とほ〜さ〜業や白速フケラ 卜

慰女房

三カウシ盒子〜ら〜りや年の雪 嵐雪

擦尻雪

上 九三

年の暮かひさぐさくゆりあり

月下

游氷花

年北市蕎麦うらぬホ井糸丸

同

其袋夏之部

更衣

名聞をそふれずもあり更衣

霞沾

帯ふろし信務いさる一有縁形ころもかへ

ころもかへかたひ鋤立ころもをんれお

ほころいもあやれよ三箱あのと縁縫

老きもぐ舟竹つよさ舟竹あつせお

帯ゆふか上宅あらしめやち縁もへ

夜更けの傾城乃うとささるし

初月や不しあそびのかげのほみ

青簾

五位ら位らとささるせとささる

ささるせとささるいひささる

空城よすけけやうせんささる

水乃りの摺書あつせとあそびの

江と新樹

紫船の清くささるせとささる

一さあつて輪舞のあつたささる

鷗鳩

銃テリウや勢を乃うあそびのかんささる

ささるのささるあそびのささる

極珍の山田とささるかんささる

登白のよささるかんささる

かんささるあそび荒つてくささる

月下

當歌

嵐雪

月下

紅葉

才治

才磨

活荷

氷花

調柳

舟竹

稻花

極下

舞

少婦のよるよるねむりの糖より

風吟

庖丁のしんいよ解まん

新屋よ糖をどまむある一外

百里

子規

月くまより新茶より濃茶のよ

才廣

何をもと井一乃水のつり

露沾

待乳山の往はるを凌ぐ

空のよるに昼竜観るぬれよ

嵐雪

浮舟や喧嘩よりしるはる

立志

友瘦の秋をよ掃ぬゆへ子規

春和

杜鵑よる鄰るる子規

梅川

島ありて

空のりのりのわらわらと蜀魂

桐雨

主將之法務撃英雄之心

吾人よ款よませたるはる

上宅

初ハツのハツ花ハツもハツのハツりハツらハツけハツるハツさハツすハツ 立タツ霞カスミ

新ニフ花ハツものハツりハツらハツけハツるハツさハツすハツ 水ミヅ花ハナ

二ニ四シ八ハチとト誰ナニのノ魂タマのノ数カズもモもモ 清スガ心ココロ

浮ウキ舟フネ乃ナラバ舞マユとトもモもモ 翠スズキ紅ベニ

白シロくクきキ子コ持モチ推オシくク人ヒト唯タダ高タカ分バシ 湖ウミ水ミヅ

わワさサめメいイふフ灸シユすスあアらラとト 夕ユフ日ヒ

くクくクちチけケいイふフあアらラとト 百ヒャク里リ

吃クツてテいイふフあアらラとト 百ヒャク里リ

何ナニとトいイふフあアらラとト 杜ツ英エ

灌佛

乃ナラバ中ナカにニ新ニフ茶チヤ子シすスくクまマいイ分バシ 青アヲ女メ

灌カン佛ブツやヤ入イらラぬヌ乃ナラバ方ハツ佛ブツ 百ヒャク里リ

灌カン佛ブツやヤ録ロク鬼キのノ増ゾウ分バシのノ衣イらラとト 上ウヘ

顔取

唐カラのノ香カウ色シキみミくクあアらラとト 嵐アヲ雪ユキ

あはれなるもろにうららかに
自にうららかにゆめをみれば
かいたもろにうららかに
嵐雪
當歌
不一

蚊到明

蚊のあはれなるもろにうららかに
美乃骨火弁よそよそに
風浪
あはれなるもろにうららかに
さうさうにうららかに
嵐雪

蚊のあはれなるもろにうららかに
蚊乃あはれなるもろにうららかに
延雲の子乃蚊をよそよそに
蚊やあはれなるもろにうららかに
病をたぬるもろにうららかに
代敷乃蚊よそよそに
孤屋
北風
大柳
笑種
青女
桐雨

蚊

蘊の福

ついでとらんぬや新近の鳥とわ 翠風

新ついでをまきも新をやつとらん 氷花

うまと星のむ園から新川か 湖舟

柳鮎カヤキうまとらん 舟竹

照射

う杖よ哥うと歌のうとらん 嵐雷

端午

蘭乃香にあや湯敷の古へらま 立志

傘とより昔のうとらん 青女

辰サちサちサ 橋やう海乃乃白とらん 百里

人立やかうとらん 湖水

銅乃樋よとらん 笠下

伏見軒とらん 稗史

おコモおコモ 汐のうとらん 七

下地

おもふ人よあはれ重地しげちのうらな
さきうらの嵐あらしに重地しげちかきうら
嵐あらし 立志

競馬

毛けのきやうれ競まよ尺せきさう尺せき寸すん
人の世よをかきさきしなり競馬
氷花 山川

瓜

水みづ飯いひよかきぬ瓜うり乃のくくか
和瓜わうりと姉あねよらうせん款くわん詠えいり
其角 巴風

五月雨 付五月書

あきれ乃のうらうらナカナカや袴はかまの濁にごりや
さきまや浮うきよに寸すんから地ちの寸すん
くわさきく蠅はつつのさきうらうらいぬ
さきまれや金かね鶏どりの存ぞんくくし
ありぬに壁かべのうらうら寸すん律りつくれ
書フミんんさきまの垢かわゆゆありぬ
平ひら岡おか桃もものうらうら寸すんたり人ひとあり
立吟 氷花 渭橋 調柳 山川 上千 秋下

溽暑

暑あし有り 暑もある家の暑さか

氷花

日乃冬と水のかけら暑さか

京

信徳

麻くし 枕をひく暑さか

細石

水月やぬりたりしうら

雪江

夏モノウのり 船のよし

嵐雪

あま月や暑さを 探る猫の鼻

富士夫官

銀雨

納涼

さくさくくるあつむす

立志

魚形く 光すや水乃

名口

玉川よ 小あさ 出す涼か

紅雪

枕双子

とらきん ちんきん

あつむす 探る猫の鼻

やまきん

女す ぬれぬれす 山川

探る猫の鼻

雪をく乃めけをすくし梅の尻

梅の尻のせれりゆきうきもくみ

勝たそくすもれりや屋敷を

浴

湯をけく涼しくぬるの草

秋のけりけくまて涼むの柳

短歌乃ゆし志をあり夕す

大よ趣をを退む乃す

白

梅

屋敷

立志

調柳

龜翁

嵐雪

角田川を下りに

吾曲そ一そね織のゆ帆を其水

清水 附心ち

かすしそ清水をそくし清水

あそ清水をねいもくぬほり

長瀬乃そくしにそやせころあそ

水乃それそくしそくし

まゆそくしそくしそくし

大津 尚白

舟竹

し

嵐

祇園會

サミセン

ちりほり此之経いひてあはれ

鋤立

終もなきそらあやかしきあはれ

一詞

さる人より紋足付くあはれ

尚白

小虫まじり肌乃つるあはれ

悟心

かろふより男あはれあはれ

立吟

蠅

うらうらと経いれぬあはれ

紅雪

拔劔逐蠅

蠅をらき怒るあはれ

嵐雪

祇園會

極限流ふものさあはれ

百里

七月
降るあはれ人乃きあはれ

其角

十
山りねをさるあはれ

一三

雲

夏の空のあはれ

桐

三十一
三十二

何鳥か

雲のうらみのり上をよと見渡 百里

夕立

ゆめをうらむに呼びささるく物水 くの

夕くらや垣りかき霧の片簾 山川

夕まじりのゆるやうらむに下結ぐん 鬼貫

夕くらに追ねく霧うらむに結ぐん 随友

夕くらや池のすかしのあはれは起 場

むさしのあはれ

夕くらやうらむに下後あはれ 甲子 梅庚

蓮

夕くらや蓮よらむ結ぐ花ん 湖春

白鷺不禁塵土浣

白鷺やうらむに池のうらむに浣 菊留

まかきとれ道にんのかうらむに

田舎れ ホ子オリ 草をたのむにうらむに 花

麻

襟麻さくらり夕も行りしおは

桐雨

い〜〜〜給ツ鏝ハよ〜〜〜ん椽麻

杜格

物ほり麻刈ハ跡のあき比酒

月下

蝸牛

か〜りわ石もあ〜るき

氷花

妍シメか〜ら女乃鬼気〜りり

百里

〜りり〜りか〜ら〜ま〜

月下

夏衣

惟多れ〜何の〜や 氷花

〜の別ハ

夏衣妹さめ〜り〜路々

大津 尚白

夏草

や〜れ〜ら〜れりらこが 虚洞

急〜〜〜上り〜あ〜い外 才磨

や〜〜や竜巻の〜り〜あやめ 清風

既守一々仲ををれ馬齒^ス齒^ハ齒^ヒ齒^ユ

笠扇

若草のうめくさの冷たさは

ふる扇やかたれとくも寺の尼

嵐雪

雪敷る志や晴りの今時分

鋤立

夕顔よあそく乃たあそくを

と

道つゆの女んかたすまふゆれ

素親

さうゆかに梅子すかする恨りれ

若睡

若廣もあそくしやとくあそくも

年弓

一^ツ片^カをこもりにあかりる牡丹

湖水

咲と紅の牡丹よあそくしやとくあそくも

遠水

東叡山乃たあそくしやとくあそくも

亭をわきへ侍りく

若草のうめくさの冷たさは

緑絲

池上あそく

ふ水よ濁りあそくしやとくあそくも

舟竹

若草のうめくさの冷たさは

夏瘦ををえり人ともくきくわ

凡子

るれ白干垢よ深しうかき漬

魚見

あふ乃一まつさし月の隈

首翠

あふぬけしひも席の袋角

と

是をれ用をきくく水勢るれ

李下

水れ鳴く日影ちつづく流か

加笑 一泉

高きをらんく身ををくけり後多

菊白

とれ月よかぶるものん富里の者

涼葉

さつすうのちをささゆりしれん中

解つよくし雲をわけ魚々のれ

うれ中をささわけりし行りて

てくさく呼んでるれはも大

小の中よらんるるをさされ

あ

よの中をささすから小鷲愛 其角

夏を又みくすし志をさそれけり 鬼貫

妻驪詣

行程二里余の遠きこと
うははれはくくかきく卯乃夜
月夜丹やぬほらに出ぬ

首途

荊^{ハラ}乃花結こくし也旅もも嵐雪
日本橋太のほむ丸尺ゆの東敷
山と跡よ平のくりくく尺もも

ふれゆらうの巻よななまはら
かりたよは運乃坊のくかき
とれくきあることくく
遠けけけけけ

雨平やぶらしてあつと猿のま 當歌
神のめくおめめ

鶏乃うかいをり 夏本さら 今
塔上寺をけらしよはまにやけ塔

よ問やしのかろき一尺はくもわ
ふあふとくを結くをわ
よまいに年あつてわあむ風 青女
東はふの志を巻へとるわて
五年平るを平る

あややとくを結くをわ 今
瑞取寺

ゆらゆらとくを結くをわ 當歌

ゆらゆらの滝も人のまつぬ日

底清水乃磨り志るまはく 嵐雪

句の序よりてらんの袋の底

乃結れ句をわ

桐雨あめ一京より集わとて

りそぬ初かこのまゑあわくちり

人もことくよ道のほろか

とらひぬくせし

卯の花乃雪消半りぬのとも
らぬほかにゆりもくさやわと
いふもあをきく

梅よさしむるあやうれ^{カラキ}の嵐雪

かきかきかきかきかきかきかきかき

あきこりあきこ

^{ムニカダ}ふちよ負いさそをがし雪れ^角の

るむん園のつししるうのふ 子英

海向は残れをきくうたの波 鋤立

もれ^{ナリ}形も樗よほくさくさくさくさく 調柳

ま^ル月^{ソキ}園子ぬらんうらのふ 路通

秋の夕宮高きそとくは^{チリ}擦々わ ト天

月乃照り^コ高きあけぬじ 氷花

富子の^ま松子^のの清あり 松子

よるつげり^と秋の夕宮あけぬのふ 鬼貫

雪のりそあきのねもくさくさくさく 秀和

池チ鯉リ鮒フかきと香も淋しと砧外 風瀑

首途

ゆくやどく人よらんまじりぬの菊 巴風

くさくさくものく同くまあふ子か 舟竹

あのまふかきと 磯イソハたをよるの 李下

辻堂やうきまもまぬ楽あき 笠西

まるや業はうあよ二と後 伴自

短衣のあかきとまらふ 場マ

くさくさくくぬも乃とありと分 青女

旅人の足跡よまぬ清水如鏡 仙化

大さの秋の別やすくさきわ 百里

瀬戸深飯

さき合の口も代らん深飯くれ 桐雨

宇津谷十團子

うれと海を柳よかけと十團子 全

草津焼餅

娘う餅 姥をさるるれくわわけり 同

大和のたにさうてさあゆめをいつと

くはたきりあつらやわらわさうら

よ無毛の摘み割行一にて

伊勢

園女

ちさかおしりさかこあそく存の描

雲ののびるさかあはれ校と

色あひのちりたまれあひさ

あひさ

あひさしあひさあひさあひさ

あひさあひさあひさあひさあひさ

あひさあひさ

あひさあひさあひさあひさあひさ

伊勢あま川

あひさあひさあひさあひさあひさ

伊勢あま

らねのるくやれりそ
弱われあうりひたわさの上
花のさよ顔うしやこい夜
舞うくわあさうく
秘めかきふれんさうお徳
印 曙
はるしあや水のまにこいひのち
はるまわさうく

よかろはよりの川柳
卯月節の蜀麻のあしき
あしきあしきあしき
衣更しつろ織ぬしよ
はるしあや水のまにこいひのち
あし美し卯のあしきあしき
よかろはよりの川柳
はるまわさうくあしき
よかろはよりの川柳

うぐけくねさー 麻の袋角

法海

二王もいりうり鳥のさし

北國何トヤラしめ家なほ

あ乃夷もけいへん

けい

あ

夏月やいりも

このあらのあま

024

